



吹田市総合計画 市民説明会報告書

発行：吹田市役所

日時：平成25年2月26日(火)～3月3日(日)
場所：豊一市民センター(2/26)
千里丘市民センター(2/27)
岸部市民センター、千里市民センター(3/2)
メイシアター、ゆいぴあ(3/3)

プログラム

- 1 開会・本日の進め方の説明
- 2 吹田市総合計画(素案)の概要説明
- 3 質疑応答・意見交換
- 4 終了



総合計画(素案)の概要説明

総合計画(素案)の概要について説明

事務局から、パワーポイント資料及び資料「吹田市総合計画(素案)吹田2020ロードマップ」を用いて、計画(素案)の概要について説明を行いました。



質疑応答・意見交換

総合計画(素案)の概要について、参加者からの質問、意見を伺いました。各説明会で出された主な質問、意見と事務局の回答について簡単に御紹介します。

2月26日(火) 19:00～ 豊一市民センター(参加者17名)

少子化対策には、企業と産業を維持して、働ける場所を確保することが必要。

高齢者対策は重要。医療費ではなく、ほかで削減を行うべき。

医療予防など、元気な高齢者を増やす取組を重点取組の1つに位置付けている。
東西の公共交通を検討してほしい。

事業者等と連携して少しずつ改善していくことが必要。

防災について、どのような取組を考えているか。

実態に合うように、地域防災計画の見直しに取り組む。

地域防災リーダーを決め、有事に地域のリーダーを中心に対応できる仕組みを検討している。



2月27日（水）19:00～ 千里丘市民センター（参加者22名）

吹田市民の利用が多い JR 千里丘駅についても、摂津市と連携してほしい。

広域交通の視点から隣接する駅の利便性についても検討していくことが必要。
身近な生活に密着する具体的な計画にも言及してほしい。

総合計画は全体を方向付けるものであるため、各部門の個別の施策で対応したい。
数値目標の根拠を明確に示してほしい。

シングル世帯が多い。コミュニケーションを取れる方針を議論してほしい。

人口動態をしっかりと勘案して計画を立てていきたい。

地域別計画はなぜ無くなったのか。

まちづくりや福祉環境など、それぞれの政策で適切な地域範囲が異なるため、策定中の総合計画では地域を特定せずに総合的な方針を優先し、分野別計画で検討することとした。

具体的な施策と関連付けて計画の説明を行ってほしい。

総合計画は最上位計画なので理念が中心になる。説明においては、具体的な話も交えつつ伝えられるよう今後努力したい。



3月2日(土) 10:00～ 岸部市民センター(参加者10名)

ネットワークを作って協働を進めるだけではなく、市民団体や集会所への助成、支援などは維持して行ってほしい。

前回の計画の反省点を示してほしい。

行政評価の形で行ってきている。

洪水対策についてどのような防災措置を行っているのか。

素案の中の下水関係の方針に、雨水対策を記述している。

今後も安心安全の観点から、地域防災リーダーや洪水ハザードマップの活用促進などを行っていく。

個別の高齢者の視点を持って計画を立ててほしい。働きたい高齢者もいるので、ボランティアな雇用を保育などに活用することを検討してほしい。

産学の集積地である吹田の人材を活用する取組を進めてはどうか。

JR 路線以南の防災対策を強化してほしい。



3月2日(土) 14:30～ 千里市民センター(参加者32名)

法改正で計画の義務規定が無くなった。条例による総合計画の位置付けを行ったか。

現在の計画は義務規定があった平成18年度に策定した。

今後の総合計画策定の根拠は、現在条例で定めることを検討している。

開発行為について、指針や計画を厳格に適用して行ってほしい。

第3次総合計画とどのように変わったのか。

まちづくりをみんなで進められるように見方を変え、より身近に感じてもらえる計画になるよう工夫した。

防災に対する取組が少ないのではないか。

合同防災訓練、地域防災リーダーのような、行政と地域が協力して取り組む事例を進めている。

総合的な計画では市が目指す特徴が見えてこない。

市長の方針との違いはどこか。

総合計画と首長マニフェストは趣旨が違うものであるが、総合計画は元気をキーワードに吹田を盛り上げようとする方針であり、市長も同じ意思を持って市政を進めていると考えている。

大阪市など、隣接都市の施策の方向性を考慮したか。

他市と協力してやっていく部分はもちろんある。

府などと一緒にやっていく場合、吹田市の方針を尊重してもらうためにも総合計画が重要。

研究施設や万博公園などの施設を施策に取り込んでいってほしい。

吹田市の資源を発信していきたい。今後詰めて考えたい。

千里ニュータウンを資産として守っていくのも吹田市の役目。

まちの発展の歴史的経緯を大事にしてほしい。

多世代が集まって情報を共有できる施策を行ってほしい。

市民自治を末端の自治会から進めていってほしい。

独居老人の孤独死対策を行ってほしい。

新聞販売店等の事業者と連携して、高齢者の見守り施策を進めている。

女性のトイレなど、避難所の整備を検討してほしい。

環境教育促進法について、担当部局を明確にしてほしい。



3月3日(日) 10:00 ~ メシアター (参加者10名)

公共交通で市内移動が可能となるような大きな方針を示してほしい。

吹田の緑を増やす方針を示してほしい。

垂水神社から千里山の一带を、国、市民も巻き込んで計画していってほしい。

縦割り行政を超えて、方針のメリット・デメリットを考えて計画を立ててほしい。

JR吹田駅前の立体駐車場、その周辺の開発の計画を早く策定してほしい。

吹田は人口を増やせる地域ではないのか。緑と人口の両方を増やす方針で進めていってほしい。

人口が維持できても、年齢構成の割合が変わってくる。地域ごとの人口構成など、人口動態を検討しながら計画を立てていく必要がある。

緑を維持するため、市民が参加できる生産緑地を増やしていってほしい。

行政官は地域の歴史や地理を学んでほしい。市民も協力する。



3月3日(日) 14:30～ ゆいぴあ(参加者9名)

マンション開発を抑制して、緑を残して欲しい。

子育てについて不安な部分が多い。幼稚園と保育園の一体化は再検討してほしい。

子育てする親に見てもらうため、幼稚園や保育園にも素案を置くべき。

このような計画を立てるなら、すべての職員に把握しておいてほしい。

今回の総合計画は市民にも職員にも分かりやすい計画を旨としている。

団塊の世代に役割を与える方針を盛り込むことで、経費削減、高齢者の生きがい、子どもへの貢献が生まれるのではないかと。

幹線以外の交通が便利になるような公共交通を検討してほしい。

吹田市にある大阪市の医療施設に要望を出せないか。

担当部局から要望は出していきたい。

市民が集まって活動する、ソフト面を中心に計画を立てても良いのでは。

これまで行政だけで進めてきたようなことを、多様な主体で進めていきたい。

保育園の保護者のつながりや、障がい児の学童保育など、多様な視点を持って子育て支援を行って欲しい。

現在の山田駅周辺の地域が充実しているのは、開発段階から住民が参加して計画を積み上げてきたからである。このような実績があることを、市全体の運営や計画策定でも考慮して進めて欲しい。



今後の予定

3月1日（金）から4月1日（月）まで、総合計画の素案について意見募集を行います。市報、ホームページのほか、市民センター、出張所、図書館などで素案が閲覧できます。意見書回収箱を設置しますので、ぜひ御意見をお願いいたします。

事務局・問合せ先

吹田市役所 行政経営部 企画政策室（総合計画担当）

Tel：06-6384-1632（直通）

Mail：ks_sokei@city.suita.osaka.jp